



目次

報告 女性プラザ祭2024レポート…………… 1	イベント紹介…………… 2・3
女も男もワイワイセッションレポート… 2・3	インフォメーション&トピックス…………… 4

報告 女性プラザ祭2024レポート

講演会 私が出会った世界を動かした素敵なトップリーダーたち



【講師】
国際津波防災学会代表、
元衆議院議員
山中 燦子さん

道産子である山中燦子さんは、道内の大学で教鞭をとられた後、衆議院議員として外務政務官などを歴任したほか、英国ケンブリッジ大学の客員教授を務められるなど世界を舞台に活躍をされました。

山中さんは、ポストコロナにおいて変化する社会の価値観・行動様式、日本を取り巻く国際情勢や政治の不安定化、多発する自然災害などといった時代の潮流に対応していくためには、女性ならではのエンパシー、つまり、人の気持ちを考え、思いやるのが重要とおっしゃいます。そんな山中さんが執筆された「世界を動かした素敵な女性トップリーダー23人」の中から、5名についてご紹介いただきました。

(ご紹介の概要)

- ・ヘアテ・シロタ・ゴードンさんは、GHQ調査専門官として日本国憲法の第24条(男女平等)などの起草に貢献された方ですが、彼女は、「自国(米国)の憲法に入っていない男女平等の夢を日本の憲法に入れたかった。」と語っていました。
- ・マーガレット・サッチャーさんは、英国首相在職が史上最長の11年間にも及び、付加価値増税を掲げて総選挙に勝利するなど「アイアン・レディ」という凛としたイメージがありますが、実際に接してみると、感性が豊かで、気遣いのあるやさしい方でした。
- ・アンゲラ・メルケルさんは、ドイツ首相在職の16年間において、バランスの取れた巧みな経済回復を実現するとともに、EUのまとめ役という役割を果たされ、「ドイツの母」と呼ばれましたが、彼女が環境大臣の時に会った時は、物静かで、理路整然と話される方でした。
- ・ナンシー・ペロシさんは、5人の子育てを終えてから、47歳で下院議員に当選された方で、女性として初の下院議会議長です。慎重な物言いをし、落ち着いた雰囲気の方であり、心情的にはリベラルで、天安門広場事件やチベットへの迫害に関して中国を厳しく批判していました。

・元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんは、学者、外交官であるとともに、日本政府を上手に動かし、国際社会に実績を残すという政治的な一面を持ち合わせた、類まれな人物ですが、アメリカでお会いした時に英語で話される緒方さんは、とてもリラックスした印象がありました。

その後、今後のリーダーが考えるべき重要な二つの理念についてお聞きしました。一つ目は「人間の安全保障」。これは1994年に国連開発計画が定義したもので、領土の保全や核のホロコーストから地球を救うといった伝統的な安全保障の考え方に対し、病気や飢餓、政治的弾圧、環境災害の脅威などから「多くの人」を守るというものです。こうした考え方は、SDGsの設定にも大きく影響しており、今、ポストコロナの時代に、もう一度オリジナルの「人間の安全保障」の理念に戻ることが期待されています。

また、2つ目の「予防外交」は、国連の事務総長の調停のもとに、争いの発生を防ぐとともに、争いが紛争へ発展する前に解決したり、拡大を制限するという考え方で、1992年に定義づけられた当時は、東西の軍事大国から受け入れられなかったという経緯がありますが、紛争・戦争のみならず、自然災害やパンデミックに援用することができる優れたコンセプトであり、ロシアのウクライナ侵略を目のあたりにした今こそ、多くの国連加盟国がこの概念を再認識し、実施できる国連であってほしいと話されました。

そして、こうした予防外交の考え方に基づきコロナへの対応が比較的上手にできたとされるドイツと台湾の例を挙げ、いずれもが女性リーダーであることを指摘されました。

最後に、こうした理念を実現するためには、女性も男性も「選択できる社会」にすること、女性が持つエンパシーの視点を生かした制度の構築が必要と訴えられました。



女も男もワイワイセッション レポート

 あいにくの悪天候となった開催当日、暦の上では立冬ということで「冬の始まり」らしい雪の日となりました。足元が悪い中ではありますが、事前に申込みをされた沢山の方にご来場いただき、まさにこの日にふさわしいテーマで北海道だからこそ必要な防災について考えました。道内の幅広い地域からオンラインでご参加いただいた皆さんもありがとうございました！

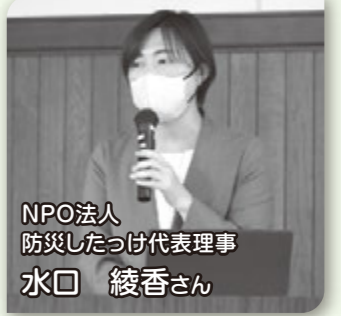


男女平等参画の視点で北海道の防災について考えよう

「防災」

第2部 「災害時に必要な男女平等参画の視点や女性の防災参加を促す取り組み事例」

第2部では「災害時に必要な男女平等参画の視点や女性の防災参加を促す取り組み事例」と題し、NPO法人防災しっけ代表理事の水口綾香さんをお迎えしました。2011年3月11日に起きた東日本大震災時、お子さんと二人きりだったという水口さん。今まで仕事で身につけてきた防災の知識では自分の家族を守れない、と痛感したそうです。「誰もが災害に人生を左右されず笑って寿命を全うする。そのために一人一人がちゃんと災害を乗り越えられる防災を探求する」を自身のテーマに掲げ、現在の活動に至ります。今回は大規模災害時に問題視されるジェンダーに関わる問題とともに、女性の防災参加について「防災しっけ」の取り組み事例をお話いただきました。



NPO法人
防災しっけ代表理事
水口 綾香さん

* * *

NPO法人防災しっけでは、様々な方へ向けて防災研修を積極的に行っています。そういった研修の場面になるのが「ジェンダーの格差」です。例えば、「短大=女性、地域の防災=高齢男性」といったイメージが根強く残っている場面を多く見かけます。これは国際女性デーに発表されたジェンダー・ギャップ指数にも顕著に表されています。つまり、大規模災害時に問題視されるジェンダー格差は、普段の生活に潜む社会問題からすでに始まっていると言えます。日頃、無意識に起きているジェンダーに関する問題に目を向けて、平時の社会を変えていくことが重要だということをお水口さんから教わりました。しかしながら、社会がすぐ変わることは難しいのが現実。まずは「自分の身は自分で守る=自助」の努力をすることが重要です。子どもの成長段階に応じた防災教育もまだまだ十分とは言えない現状のため、今後は幼いうちから学ぶ必要がある、と参加者へ呼びかけました。また、被災時は社会的に弱い立場の人ほど被害が大きくなる傾向にあります。そういった支援を必要としているマイノリティの方へ支援が行き届くように、できる人はまず自助の努力をすること、その上で支援に回ることもできる人は支援する側になっていく社会を目指したいと思いました。

そして、自助とともに大切にしたいのが「地域や町内会などといった周囲の人との助け合い=共助」です。現状、地域の防災を担っているのは高齢男性が大半です。そうすると、生きてきた時代背景を反映した偏った運営になりかねません。老若男女問わず、様々な背景を持つ人々が地域の防災に関わることで、いざというときに大きな力を発揮します。防災しっけの防災研修でも、対象者を絞らずに誰でも自主的に参加できる取り組みを日々実践しているそうです。防災研修という試してみる場に、様々な背景を持つ人がいて、それぞれの意見を尊重しあえる関係性を日頃から築くことが災害時の問題解決の糸口になると気づかされました。

まさに、水口さん自身のテーマでもある「誰もが災害に人生を左右されず笑って寿命を全うする。そのために一人一人がちゃんと災害を乗り越えられる防災を探求する」ための答えが、今回のお話の中に沢山散りばめられていました。貴重なお話をありがとうございました！



第1部 「防災の冬支度-積雪寒冷期の災害への備えについて」

第1部では「防災の冬支度-積雪寒冷期の災害への備えについて」と題し、札幌市立大学看護学部講師の鬼塚美玲さんをお迎えしました。鬼塚さんは元陸上自衛隊の看護官でもあり、積雪寒冷期の環境下における厳しい訓練のご経験があります。凍える中で冷え切った非常食を食べる辛さや、経血で保冷剤のように冷え切った生理用品を身に着け続けなければいけない辛さ…実体験を通したお話しには説得力があり、北海道で暮らす私達にとって危機管理意識の高まる貴重なお話しでした。



札幌市立大学看護学部講師
元陸上自衛隊看護官
鬼塚 美玲さん

* * *

北海道で起きた記憶に新しい大きな自然災害として、2018年9月6日に起きた胆振東部地震が挙げられます。ブラックアウトを経験し、不自由な生活を余儀なくされましたが、不幸中の幸いだったのは「冬」を迎える前の暑くも寒くもない季節だったということです。2024年の元旦に起こった能登半島地震では厳冬の寒さを目の当たりにし、各自治体が根本的な寒さ対策の見直しを意識しました。私達が住む北海道で、もしも冬の深夜に巨大地震が起きたなら、被害は甚大なものとなるのが予想されます。札幌市の想定では、凍結や積雪によってライフラインの復旧作業が夏季の7割程度に落ち込み、避難所には夏季の2.1倍の避難者が殺到すると予想されています。避難所へ避難したからといって寒さの問題は解消されません。鬼塚さんの実体験（無暖房の体育館、室温4℃）によると、ダウンジャケットを着用し、ビニールシートの上に毛布を敷いた状態で防寒対策をしっかりと行っても3分も寝ていることができなかったということです。簡易ベッドや段ボールベッドは、すべての人に行き渡るだけの備蓄がなく、さらに冬は雪の影響で支援物資が届きにくくなるため、健康な方は避難所でも寒さを解消することは困難だということをお認識しておく必要があります。寒さによる健康被害は特に深刻で、場合によっては命に関わるケースもあるため、積雪寒冷期の災害への備えがいかに重要であるかがよく理解できました。

これらを踏まえた上で、必要な備えとしておさえておきたいポイントを最後に5つ教えていただきました。

- ①在宅避難&最低1週間分の備蓄（生活用品、衛生用品、薬など）
 - ②多様な防災グッズの準備（電池式の暖房器具、静音アルミブランケット、避難所で直寝しないためのマット類など）
 - ③カロリー摂取&温食のための備蓄（長期保存できてハイカロリーな羊羹、お湯を作るための資機材の確保など）
 - ④濡れない準備（撥水性のある防寒服、衣類をジッパー付き袋でパッキングする、など）
 - ⑤備えの衣替え（最低でも夏・冬の2回は備えの見直しをする。特に、非常食については食べたいものが変わる、など）
- 本格的な冬を迎える前に「防災の冬支度」をするきっかけを与えてくださった鬼塚さん、ありがとうございました！

イベント紹介

プラザ祭期間中に実施したイベントの一部を写真でご紹介します。

オープニングコンサート



<出演> トリオ・フローレ
林ひかる・狩原枝里子・渡部美穂

DVD上映会



<上映作品>
「そして、バトンは渡された」

N village Festa



札幌の女性起業家や
起業を希望する女性達が出展！

プラザマルシェ



地元野菜や調味料、
イートインコーナーでは豚汁定食を販売

女性セミナー



「超高齢社会における共生社会の創造」
主催:北海道女性団体連絡協議会

憲法カフェ9

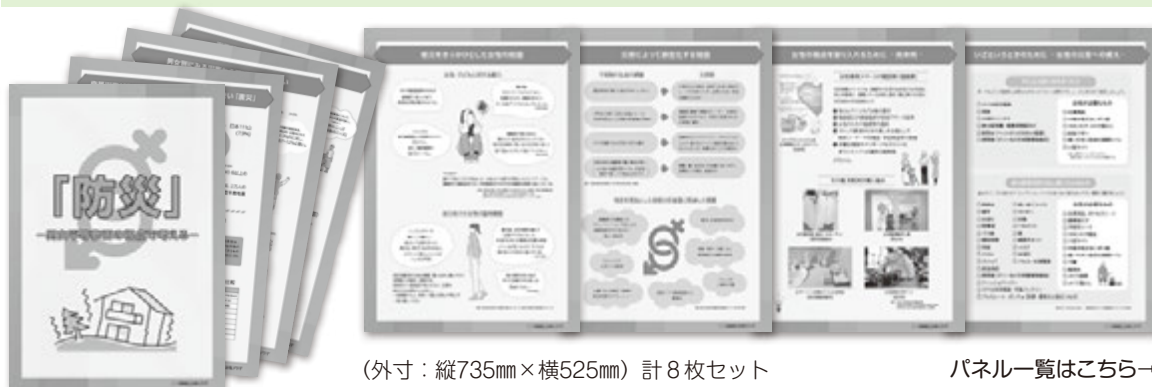


「同性婚問題のゆくえ
~新しい家族の絆を求めて」
主催:北海道ジェンダー研究会

インフォメーション & トピックス

啓発パネルを貸出しています

女性プラザでは、「『防災』—男女平等参画の視点で考える—」をテーマに、令和6年度の啓発パネルを作成しました。過去に作成した所蔵パネルも含め、無料で貸出しております。地域での啓発活動に役立ててみませんか？
※申込などの詳細につきましては女性プラザへお問い合わせください。



(外寸：縦735mm×横525mm) 計8枚セット

パネル一覧はこちら→



情報提供フロアよりピックアップ書籍 2024年度冬の新着図書より、おすすめの本をご紹介します。



テヘランのすてきな女
金井 真紀 著
晶文社



**いばらの道の男の子たちへ
ジェンダーレス時代の男の子育児論**
太田 啓子×田中 俊之 著
光文社

**ダイバーシティ 女性活躍はなぜ進まない？
組織の成長を阻む性別ガチャ克服法**
羽生 祥子 著
日経BP



**家族全員自分で動く チーム家事
日本唯一の家事シェア専門家が導き出した**
三木 智有 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン



ケアメン講座のお知らせ —ひとりで頑張らない介護のコツ—

団塊世代が後期高齢者と移行していく時代。働き盛りのあなたが仕事と家族の介護を両立するとしたら…。いざというとき、どんな支援や制度があるのか、ケアする側・される側お互いの人権を守る選択肢について学んでみませんか？

■日 時：2025年3月1日(土) 13:30～16:00

■会 場：かでの2・7 7階 730会議室 (札幌市中央区北2条西7丁目)

〈第1部〉仕事と介護の両立支援・介護離職を防止するために～ワークサポートケアマネジャーの役割～

・講師：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会 副会長 東 幸智 さん

〈第2部〉家族介護者支援と認知症ケア～認知症対応型通所介護の機能～

・講師：㈱Nハートネットワーク 認知症デイサービス もいほはーと 代表取締役 西脇 利恵 さん

〈交流会〉介護に関する疑問、日ごろの悩みなどを気軽に語り合しましょう！

・ファシリテーター：さっぽろ社会福祉士事務所 代表 大島 康雄 さん

■定 員：先着20名(※男性向け講座ですが、パートナーとのご参加も歓迎します。)

■申込み：申込フォーム、電話、Eメール または女性プラザ窓口

☎ 011-251-6349 (9:00～17:00 日曜・祝日は除く)

✉ info@l-north.jp (@の後ろの「l」は小文字の「L」です。)

申込フォームはこちら→



●「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。

●「えるのす」は女性(Lady)、北(North)の頭文字を組み合わせた造語です。

発行／北海道立女性プラザ(指定管理者：公益財団法人北海道女性協会)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7 6階

☎ (011) 251-6329・6349 (*お問い合わせは9:00～17:00にお願いします。)

《休館日：日曜・祝日・年末年始 開館時間：月～金 9:00～21:00、土 9:00～17:00》

女性プラザ HP→

年2回発行

